

## 2019年度第3回阿波おどり運営協議会議事録

開催日時 令和元年11月28日(木)午後3時～

開催場所 徳島市中央公民館3階 302会議室

出席者 委員21名(内代理6名、欠席4名) 事務局5名 事業体4名

### 1 開会

### 2 代理出席者及び欠席者紹介

### 3 議題① 2020阿波おどりについて

#### 【A 委員】

前回の運営協議会で観光誘客、旅行エージェント向けの開催日程の早期提示、両国橋南詰付近の雑踏対策、また海外のお客様への対応の見直しについて話をさせていただいたが、今後の方向性の中である程度は反映されていると思う。

開催時間について、県内外のお客様からは午後10時30分まで開催というのが、本場徳島ならではの魅力であるという事も聞いている。また、県内での宿泊とか夜間消費へのこともあるので、終了時間の前倒ししたことによる影響について、観光関係者からの意見を伺う必要がある。

次に無料演舞場について、街を歩きながら踊りを楽しめる、観光客からも人気が高いスポットであり、踊り子にとっても踊りを披露できる舞台となっている。有料演舞場で優先連の踊りが増えると、場合によっては一般連、企業連が有料演舞場で踊る機会が減るのではないかと。そういったこともあるので、可能な限り無料演舞場の現在の規模を維持していくべきだと思う。特に見直しの中にある元町演舞場と新町橋演舞場は眉山に向かってのメインストリートであり、お客様からの人気が高く、一般連や学生連にも踊り込むことができる演舞場である。元町演舞場、新町橋演舞場を撤去することによって当該エリアの集客力が低下してしまう恐れがあり、両国橋付近に雑踏が集中するということも懸念されるため、栈敷の撤去についても慎重に分析していく必要がある。

#### 【B 委員】

踊りの開始時間について、17時30分から開始については大賛成である。17時過ぎになると観光客の方や、一般の方が演舞場周辺に集まってくる。警察も交通規制を行うために待っている状況なので、開催時間の前倒しは非常にいいことだと思う。

市役所前の観光バスの対策についても非常にいい案である。市役所前演舞場は他の演

舞場から離れており、人も少ないように感じるので観光バスの乗降場所にするのは賛成である。

#### 【C 委員】

市役所前演舞場を廃止して観光バスの乗降所に変更する案があるが、国道、県道が混雑する中でバスをどのように誘導、運行するのかを警察、道路管理者と十分な協議をする必要がある。

また、道路での栈敷設置や通行制限については、事前に道路管理者と十分な協議をお願いする。

#### 【D 委員】

チケット料金について、色々な方に話を聞いたところ現状のままで良いのではないかという意見が多かった。販売スケジュールについて、県外からチケット購入の依頼を受けているので6月1日など早い段階で販売開始していただければと思う。また対面販売所も5カ所ぐらいに増やしていただければと思う。

参加費について、どの連も9月1日くらいから週に1回は練習を開始している。練習するために、お金を出して会場を借りて練習をしている。絶対反対ということではないが、できれば有名連は参加費を免除していただきたいと思う。

#### 【E 委員】

私共の立場としては、阿波おどりを今後ますますパワーアップしていく、日本国内だけではなく世界にぜひ来ていただきたいと魅力を発信していく、そういうことを視野に入れて議論するいいタイミングだと思いアンケートの回答をした。特にNHK徳島放送局の職員は9割以上が県外出身者であるが、徳島に住み、徳島の状況がなんとなくわかりつつある。外の目が阿波おどりをどう見ているのかについては、我々しか提示できないと思いたくさん記載させていただいた。来年はオリンピック、パラリンピックが開催され、年が明けるとその話題でメディアの大部分を占めるようになると思う。一方で、徳島市だけではなく日本の各自治体はオリンピック、パラリンピックで世界から注目が集まっている機会を何とか利用しようと、今から作戦を立てて自分たちの良さをPRしていこうと考えている。そういう状況で出遅れるのは致命的なことになりかねない。色々と検討、調整していく課題は多いと思うが、スピードして、例年よりも早めに阿波おどりの良さをPRしていくのがいいと考える。

#### 【F 委員】

栈敷、露店の廃止を検討する場合において、救急車などの緊急車両の進入口の動線を確保するなど消防活動上支障のないように配慮をいただきたい。

藍場浜演舞場の特別観覧席など構成を変更する場合は観覧者や演舞者の避難上支障のないように配置を検討いたさきたい。

#### 【G 委員】

市役所前演舞場を廃止し貸切バスの乗降場にする案があるが、運行経路が八百屋町の

交差点を四国電力の方に曲がって、線路沿いで市役所前に入るという経路しかないと思う。そういったルートでは線路沿いは道が狭いので大型バスが通れない。計測したが道幅が6メートルしかないので履行が難しい。また、四国電力の駐車場の近くを通過するということは危険を伴うこともあり難しいと思う。市役所前に車を止めるだけであれば何とかなるとは思う、バス乗降場は現実的でないという意見である。

チケットについて、演舞場とバスの駐車場がリンクしていなかった。例えば、市役所前のチケット持っているのに、駐車場が吉野川というのがあった。市役所前演舞場で見終わった後に団体を市立体育館に歩かせて、そこからシャトルバスに乗るといった感じになっていた。特に12日と13日は吉野川の河川敷に集中しており、マリナーミナルはガラガラであった。それは、飛鳥クルーズの客が市役所前のチケットを持っているということを確認してバスをマリナーミナルの方に回していたからであるが、最後の詰めが出来ていなかった。

最後に乗車する時のお金の受け渡しに関するのだが、去年までは往復で乗るときバスのチケットを購入出来たが、今年は買えなくなっていた。それはチケットではなく現金のみのやり取りになっていたからである。しかも添乗員が40人分の8,000円を持っていたとしても、個別に支払うようになっていた。この部分を改良すれば混雑は解消されると思うのでまた相談いただけたらと思う。

#### 【H 委員】

事務局に確認をしたいのだが、事業体と実行委員会の契約書から大きく変更ができないのであれば、議論していい意見が出たとしても仕方ないのではないか。契約書が現時点では経過しているので、出せるか出せないかということを知りたい。事業体が一生懸命してくれているのだから、余計なことを言う必要はないという意見もあると思うが、契約書、仕様書についてどのような契約になっているのか教えていただけないと話が進まない。

#### 【事務局】

年度当初に事業体と実行委員会と契約をまかさせていただいている。契約の条項自体には契約の変更の規定もあり、契約の変更については可能であると基本的には考えている。ただ一方で、本日の意見や提言書も踏まえ、明日の実行委員会にて、契約内容を変更するかどうかについても議論されるべき内容だと思っている。契約条項上は変更可能だと思っただけで問題ない。

#### 【H 委員】

変更の程度、何でも変更できるということは契約書に含まれていないのではないか。契約書を出せるのか出せないのか答弁いただきたい。出せないのであれば、出せない理由を聞きたい。これは急に言ったのではなく、アンケートの意見として記載していたので、その回答いただけたらと思っていた。

#### 【事務局】

現在は手持ちとして用意しているわけではないので、今お渡しすることはできないが、公

開になったとしても良いものだと思っている。

**【H 委員】**

契約書の公開は当然だと思う。評価委員会からの提言にもあるが、1つの棧敷を止めてしまうような変更が可能かどうか。極端な話1つの棧敷だけでなく、3つの棧敷を止めてしまうことも可能かどうか。小さな運営に関することは、せっかく受託していただいているから、全面的におまかせするのが基本だと思うが、棧敷の数を減らすというのが変更で可能かどうかについてはどうか。

**【事務局】**

契約書自体にはどこまでの範囲で契約が可能かどうかという規定までは記載していない。実行委員会でもどこまで変更するかは十分協議していくことになる。ただ、今回民間委託となった1つの要因として、昨年度の阿波おどり事業を検証した有識者会議からの事業を検証した中で「みんなで支えあっていく阿波おどり」にした方がいいという提言があり、参加費制度が導入や民間委託という方針があった。また、毎年事業評価は必要だ、第三者の目で阿波おどりを検証して、より良い阿波おどりに転換していくようなスキームが必要ということも有識者会議から提言された。契約内容の具体化については、実行委員会で議論することになるので、事務局から話をすべきではないかもしれないが、内容として「より良い阿波おどり」に向かっていくような内容であれば、委託内容については5年間の契約ということもあるので、契約条項にどこまで契約が変更できるというのはないが、実行委員会の判断基準として、そこを判断するのではないかとと思っている。

**【H 委員】**

当初の要求水準書では非常に厳しい提示、契約だったと聞いている。それが変更になるようであれば、辞退した人たちからはおかしいのではないかという意見が出てくる。

全ての人が400年続いた阿波おどりをいかに盛り上げていくか、素晴らしいものにしていくか、いかに継続していくかという思いは一緒だと思うが、5年間という大きな契約のもとに責任もってやっていただいている。状況によって、契約内容がコロコロ変わるということがあってはならないと思う。市役所前を廃止してバスの乗降場所とする発想は素晴らしいが、バスの運行ルートに不安な面があるのではないかと思う。事業体がせっかく一生懸命運営していただいております、盛り上げていただきたいという思いは皆も一緒だと思うが、常識の範囲があると思うので、慎重に検討していく必要があると思う。

**【I 委員】**

阿波おどりを県外客からの目線で見させていただいており、阿波おどりというのは素晴らしいものだと思っている。何とかして拡げていきたいと思っており、これから5年間はチャンスが来ている。来年のオリンピック、パラリンピックオリ・パラから始まり、西日本はワールドマスターズゲームがあり、注目される時になっている。その中でお祭りというものは非常に盛り上がる素材なので、是非多くのお客様に来ていただきたいと思っている。

阿波おどりは、踊る側と見る側の両方の側面があると思うが、前夜祭は魅せるパフォーマンスだと思う。非常に価値が高く、磨きがかかったものを見せているので、料金的に県外、海外の人に対しても、もう少し高く取っても全然問題ないのではないかと思う。料金に緩急をつけるような工夫をするのもいいと思う。

販売時期の早期化について、お客様の集客を確保するというところもあるが、早くすればするほど露出が増えて宣伝になっていく。なので、早ければ早いほどお客様の選択肢に入ってくるので、早い時期にPRしていくのが良いと思う。

他の委員の意見の中で、混雑が集中しており歩くのが困難とあったが、露店が並んでいるところで立ち止まって水分をとったり、食べたりする留まる傾向にある。集中フードコートということで、早い時間帯からお客様が集まっていたり、お腹を膨らませてから踊るなど、そういったところを見せ場にもなると思うので、作ってみても面白いと思う。

#### 【J 委員】

チケット料金についてメリハリを付けることが必要だと思う。例えば、早期予約は安く、人気の席は高くという形で増収につなげていく。団体販売については、首都圏等々で新聞、チラシにどんどん出てくるので、阿波おどりのPRも兼ねて早く販売していただきたいと思う。40名以上の買い取りなどの制約は必要最小限にして、できるだけ多くの旅行会社に阿波おどりの商品を作っていただくことで誘客につなげていくのがいいと考えている。

演舞場について、質の向上ということが言われているが、企業連、一般連が有名連の指導を受けることができるようになったらいいと思っている。

参加費について、金額は問題ないが徴収時期を早めていただきたい。

日本人だけではなく外国人、海外の方にも見てもらいたいと思う。来年は羽田空港の国際化も進むこともあり、ちょうどいいタイミングであり、阿波おどりも色々なところで公演しているので、日本に来ていただくという形で、宿もセットしながらインバウンドの方にも来ていただいて盛り上げていただければと考えている。

#### 【K 委員】

阿波おどりをどういう側面で見るといいのか。興行としての阿波おどりとして捉えるのか、また、文化としての阿波おどりとしてなのか。そのあたりは区別をして議論をしていかなければいけないと思っている。徳島の夏の一大イベントである阿波おどりは、やはり興行という部分を全面に押し出していくべきではないかと思う。興行であれば、プロの興行師、イベンターである事業体にある程度お任せする部分も必要ではないかと思う。今回の民間委託も赤字、黒字という面からの意見もあることから、興行としての阿波おどりをもっと深く追求していくべきだと考える。それとは別に、徳島の阿波おどりは400年続いた文化でもあるので、いかに継続をしていくのか、育てていくのか。その部分については、ある程度税金を投入していくことも必要ではないかと思う。大きく分けて、興行、文化という2つの側面から阿波おどりを見ていく必要がある。

チケットについて、あまり価格帯が多くなるとお客様もよくわからない。案内する側もよくわからなくなってしまう。料金に関しては現状のままでいいのではないかと思っている。

販売スケジュールはできるだけ早くしていただきたい。できれば2月、3月には販売開始ができればと思う。特に団体に関してはそういった形でお願いしたい。販売方法については、お客様が一番わかりやすいという視点で考えていただきたい。

演舞場について、一番早い時間で午後5時開始という案もあるが、午後6時からでも並び始めるのは午後5時30分くらいからになる。熱い中で1時間も待っていると、熱中症になり阿波おどりも見ずに帰ったというお客様もいた。6時スタートでも暑い時期なので、それが30分も前倒して5時半からスタートすると、早い方は5時くらいから演舞場に座っている。そうなる5時から7時という時間の間、桟敷に座っているというのは非常に厳しく感じる。オリンピックのマラソンが北海道に変更になるくらいなので、熱中症対策や見るお客様の体調管理についても考えなければ、せっかく来ていただいて、熱中症になって帰ってしまうような思いはさせたくない。また、開始時間のスタートのリミットは5時半が限界ではないかと考える。藍場浜を6時、道路上のどこかは5時30分などにすると、バリエーションが多くなりすぎてお客様にとってよくわからないし、案内する側もよくわからなくなってしまう対応ができなくなってしまうので、そういったことも勘案していただきたい。

市役所前演舞場を廃止にしてバスの乗降場所にする件に関して、以前からお客様が入らないということはあるが、車の動線のことを考えると、とてもではないが、ロングボディアのハイルーフのバスでは無理があると思う。

参加費については、有名連から徴収するかどうかという議論もあるかと思うが、これについては、少しでも参加費を頂戴する方がいいと思う。また、いかに有名連を育てていくかという文化面で阿波おどりを捉えた場合に、税金を投入していくことも考える必要があり、その中で参加費についても考えていくべきだと思う。特別に、有名連だからというだけで参加費が無料というのはどうかと思うので、興行・文化という視点からの見方で多少お金の出し方も変わればいいのかと思う。

#### 【L 委員】

開催時間を早めることについて、紺屋町演舞場は交通を遮断しているので、時間を早めるのであれば仲之町から秋田町への動線を確保してほしい。そうすれば何の問題もないと思う。

現状の有料、無料桟敷の数がこれでいいのかということも、もう一度考えた方がいいのではないか。色んな案や色んなことで、だんだん祭りの規模が広がっている気がする。もう一度、阿波おどりをコンパクトに、街の中一体的に、その範囲内で盛り上げていった方がいいのではないかと思う。

また、両国の広場の混雑を見ていると、そういった形の踊りが観光客に一番好まれてい

るのではないかと思うので、あの範囲を広げてもいいのではないかと思う。

以前に両国を通った時に栈敷と商店の間が狭いので、通るのに後ろから押されるように人が流れている。もし、栈敷をやめておどり広場のようになれば商店と人の間に空間ができ、商店に入る人が増えるのではないか。収益、集客を図るのに広げていくのではなく、コンパクトな形で踊りを見直してはどうか。

#### 【M 委員】

チケットの販売について、高齢者に向けた対面販売は結果が残せるので、これからも続けてもらいたいと思う。30代、40代の親の世代は、チケット1枚買うときに自分の投じたお金が何か役に立っているという思いがあると、購買意欲につながると思うので、チケット代金の1%でも0.5%でもいいので、何か明言して広告うつと非常にいいと思う。両国本町の栈敷の出口が非常に混雑しており、各連が高張提灯を高く持って誘導しなければ、なかなか動けないような状況である。特に有名連の方々は、次の演舞場の予定が詰まっているので、非常に重要な時間だが、逆に言うとお客様にとっては、興奮のるつぼ的に阿波おどりを見られるということがあるので良い悪い両方の側面がある。

参加費については、値上げしてもいいと思うが、有名連からは徴収しない方がいいと考える。

両国本町の栈敷は、どんどん短くなっており、照明も少なくなっている。無料栈敷ではあるが、ほとんど満席で賑わっている。もしお客様の声を聞いて、延長するのも1つのアイデアだと思う。

事業体として赤字経営はつらいと思う。業績のアップを見込むのであれば、抜本的な改革は必要である。先ほどのH委員の契約書についての意見もあるので、大きく変更することは難しいかもしれないが、ブレーキ、アクセルの踏み具合の調整を行い改革していただけたらと思う。総勘定元帳を基に実行委員会と議論して、固定費や変動費も下げられると思うので、そういったところに着手していただきたい。今年、徳島青年会議所が西阿波の花火大会を行ったが、当初予算は0円であったが赤字は出ていない。青年会議所が運営すると有償ボランティアもいるが、ほぼ全員が無償ボランティアで来てくれる。商工会議所や青年会議所の高い意志を持って運営している。阿波おどりの有償ボランティアの方にも、ボランティアをやることに対して誇りを持って来年もやってみたいというような、勇気づける施策を考えていただきたい。

#### 【N 委員】

学生連は1年間通して練習を行っている。彼らにとっては、夏の阿波おどりを踊るというのは、特に4年生にとっては最後の機会であり、完全燃焼したいという思いがある。今年は残念ながら、4日間の予定が台風の影響で2日間になった。2日目の夜で最後だということで気合を入れて踊っていた。そういったことを踏まえて、チケットの販売について、私が見た限りでは栈敷に空席が目立った。踊る彼らは、空席であろうが踊るのだが、私から見ると残念だという思いがあった。当日券を購入して栈敷に入っていると思うが、もっ

とわかりやすい形で販売できたらいいと思う。

演舞場について、客が少なかったことで、連の待ち時間が昨年よりは短かったので、次々と栈敷を回ることができたのではないかと思う。運営については、よりスムーズにしていだけたらと思う。

参加費については、学生連はあまりお金がないので、できるだけ低額にしていきたい。

昨年度も意見を出したが、早い時期に東京や大阪に宣伝をしていただきたい。来年は、東京オリンピック、パラリンピックが開催されるので、そちらに人が集中すると思われる。年が明けた段階でテレビ広告や新聞広告等で徳島阿波おどりという宣伝をしていただきたい。徳島に顔を向けてもらうことで、徳島阿波おどりに行ってみようかと思ってもらえるのではないかと思う。今年度は事業体が4月以降に決定してから広告活動するということがあったが、今年もう既に事業体が活動されているので、年明けからは広告、宣伝活動ができるのではないかと思う。来年度は今年以上にお客さんが入って盛り上がってほしいと思う。

#### 【O 委員】

公演時間の前倒しについては特段の支障はないと考える。藍場浜演舞場に特別観覧席を設けるプランがあったと思うが、栈敷規模が現在の規模以上にならないよう検討していただけたらと思う。

#### 【P 委員】

チケット販売について、阿波おどりが中止になれば払戻しをするようになるが、中止になるのとならないとでは雲泥の差がある。すぐに中止として払い戻しをするのではなく、例えば、あわぎんホールやアスティを利用するのはどうか。また、販売開始を早くして、お客様の予定が変わった場合には、キャンセルできるようにしていきたい。キャンセルの方法も簡単にできるような工夫をしていただきたい。発券手数料もチケット代金に含んでいただきたいとも思う。

市役所前栈敷を廃止する案があるが、確にお客様が少ないが、栈敷の段を少なくしたり、何らかの方法で努力する必要があるのではないか。色々試してそれでもお客様が入らないというのであれば廃止してもいいと思うが、一度閉鎖すれば基に戻すのは難しいと思う。

毎年、阿波おどりの内容が変われば、携わっている人、見に来る人も混乱してしまうので、2、3年は続けるような運用をしていただきたい。

#### 【Q 委員】

チケットについて、地元の人が気軽に何日でも何回でも見に来られるような工夫というものを考えていただきたい。また、県外から1度だけ来るとい人は別に徳島市民の人たちの何かプラス的な部分があればとも思う。

また、対面販売等については当然必要だと思っており、場所的には市役所の1階のフロア辺りを検討していただきたいと思っている。そして事前に旅行代理店等の団体予約については、今年は昨年と違って割と良い意味で提供ができたと思っているが、さらにその窓口広げていただいて、容易に購入ができるようなチケット販売方法を考えていただけ



たらと思う。

演舞場について、有名連が無料演舞場の出演を控えざるをえなかった経緯がある。それは有料演舞場を作った時に、お客様から入場料を取ることから、一般連や企業連が多く踊り込むよりも有名連を数多く張り付けすることによってチケット販売の向上に繋げていくという意向があった。そういった中で振興協会としても、その意向に従いながら、無料演舞場と対比することになれば、有料演舞場の方がはるかに有料演舞場の出演が多かったという流れがある。

開始時間の前倒しについて、振興協会の連状況から言うと、より良い踊り手を集めて栈敷に踊り込む時間帯としては、現在の18時開始がギリギリだと思う。いつでも踊り手を揃えられるといった連もあるかもしれないが、大半の踊り手は仕事を抱えており、徳島市の阿波おどりは土日、祝日といった限られた開催日でない。お勤めされている踊り手が平日17時まで準備を終わらせて集まるのは非常に難しいと思われる。また、終了時間が22時30分という時間で県外に帰られる方に問題があるという理由付けもあると思われる。これも、県内の公共交通機関の臨時便を増やして近隣の宿泊施設に帰れるようにするというのも考えた方がいいのではないかとも思う。公園内の栈敷については17時開始でも問題ないという意見もあったが、紺屋町など遮断の関係もある演舞場を17時30分などの形にした場合に、アンバランスで非常に混乱をきたすと思っている。

市役所前を廃止する案については7、8年前から議論になっているが、お客様が入ってくるような方策、どうして入らないのかをもっと議論していくことが大切だと思っている。

街角のどこでもいつでも誰でもが踊れるのが徳島の阿波おどりであって、高円寺の阿波おどりは自由勝手に街角、空きの広場等で踊ることはできない。唯一街角等で踊れるのが徳島の阿波おどりであるので、こういった部分の過度な規制や統制は必要ないと思っている。

アンケートについては以上であるが、明日実行委員会があり、今日の運営協議会でも意見が全て文字に直されて実行委員会の資料として提示されていないと思うので、十分に運営協議会の意見が伝わっていないのではないかと。また、今年2日間栈敷に踊り込んだが、以前の実行委員会であれば、有料演舞場4カ所、無料演舞場3カ所、両国おどり広場に実行委員会の委員が分散して、そこで運営を見守っていた。今年については実行委員会の委員を見かけなかったが、これはどういうことなのか。

#### 【事務局】

今年の運営については実行委員会の中で協議を行い、有料演舞場4カ所と両国本町演舞場の合計5カ所に実行委員が手分けして本部席に詰めていただいていた。どの委員がどこの場所に配置されていたかまでは覚えていない。

#### 【Q 委員】

それはおかしい。誰がどこに張り付くというのは必ず決めているものである。

【事務局】

今手元に資料がないので、すぐに回答ができない。

【Q 委員】

資料を見ればわかるのか。何日のどこの機敷に実行委員の誰がいたかを時間帯も含めて示していただけるのか。

【事務局】

示させていただきます。

【Q 委員】

これは責任的な部分で非常に問題がある。

以前から申し上げているように、運営協議会が実行委員会の諮問機関である形は非常におかしいことである。実行委員会とはどういう立場の組織なのか。例えば、事業検証委員会の委員を委嘱するのが実行委員会だと思う。この事業評価委員会の委員の中に昨年の有識者会議に参加していた委員がいる。この委員は踊り連から参加費を取ることは賛成で、そうすべきだと提言したが、いざ自分が払う立場になった時に参加費制度については問題があると新聞記事に意見を出していた。そういった者をまた事業評価委員会の委員として選出することは非常におかしいことではないか。

また、他の委員は赤字対策と意見されているが、この阿波おどり事業が赤字であることはいけないことなのか。徳島市観光協会が47年間積み上げてきた赤字は4億3,000万円だったが、累積赤字を年で割ると1年間で900万円程の赤字である。阿波おどり事業に対する補助金はシャトルバス事業を含めて年間県と市の補助金合計3,000万円であるが、シャトルバス事業などに要する費用は6000万円である。補助金を貰っているばかりに毎年3,000万円赤字が出て仕方がない事業である。それをチケットの販売を伸ばして収支をプラスにしたり、雨が降ってマイナスになったりして47年間で4億3000万円の赤字である。去年は2900万の赤字だったと聞いているが、徳島新聞社の損失も数千万あり、今までかかっていない事務局の経費が3,000万円程度ある。トータルで1億円近い赤字が出ている。今年については事業体の決算見込みで1億1,000万円の赤字とある。2年間で2億円を超える赤字になっているが、徳島市観光協会は47年間で4億3,000万円の赤字である。しかも補助金額の倍費用がかかる事業をやらされての結果である。そこで遠藤市長が税金を使う事はないということで、徳島市観光協会破産に追い込んだ。

機敷購入費用を徳島新聞社からの寄付で購入したと言われているが、徳島新聞社は公益社団法人から一般社団法人に変わった時に140億円程度を国の中に戻さなければならなかった、税金対策という形の中で徳島県のために30年から50年という長い期間で徳島県が管理をしながら公共部分に充てていこうというお金であり、徳島新聞社が自由にできるお金ではない。そこから3億円を寄付されたとなっているが、そういったお金である。そのお金は機敷を買う目的で県は出していない。阿波おどりの事業を運営すること

を勘案して徳島市に3億円を寄付している。この徳島市に3億円は一般会計に入っておらず、基金として積み上げられている。この3億円の中から、阿波おどり実行委員会として、2億1,600万円の積立購入後の残りから2,900万円の赤字を補填するために支出されている。徳島市が四国銀行から借主の変更で観光協会の負債を取ってきており、市の負債として4億円近くが残っている。この時に徳島市が、年間14パーセント強の利息があり、4億円を借りた場合に1日単位で14万円から15万円の利息が必要になるので、1日でも早く潰さなければならないと言っていた。その利率がいつのまにか0.9パーセントに下がっている。しかも支払っていない。積立を売ったお金や色々な資産を合わせて最終的に5,000万円足らなくて破産に追い込まれた状況である。その残り5,000万円を阿波おどりの基金で賄おうとしていると噂として伝わってきている。これが本当であれば、阿波おどり実行委員会の諮問機関であるこの運営協議会として納得できるのか。

徳島市観光協会が運営している時の事業費は2億6,000万円であるが、去年は2,900万円の赤字が出ているからといって、今年の実業費は2億9,000万円まで上がっている。事業費をそこまで上げなくても、一昨年までは色々切り詰めて2,500万の黒字を出していた。以前のチケット料金のままで、踊り連に出演料を出していただいたままで2,500万円の黒字を出している。それを遠藤市長が実行委員会を組織し、失敗して、事業体に民間の活力を得て運営をしていただいたが、毎年1億円ずつ赤字を出している。これが何を意味するかということをもっと考えなければいけないと思う。また、本来は赤字になっても仕方ないと思っている。

事務局に何うが、踊り子の参加費は合計でいくらになったのか。

#### 【事務局】

4日間の計画数値で400万円程度だったと思う。

#### 【Q委員】

前回の会議で積立の保管料が本来は400万でいいものを800万も払わされているという話をしたが、その払い先は実行委員会のメンバーでもある栗飯原委員の東海運だと指摘している。そういったことは実行委員会の中で全く議論されていない。なぜ徳島新聞社が退いた後の空白400万まで支払う必要があるのか。それを除けば踊り子の参加料を取らなくてもいいのではないか。そういったことは議論されていないのに、運営協議会で議論しても何の役にも立たない。

市役所前演舞場を廃止することについて、4つの有料演舞場のメインを1つ削られるということは踊り子として非常にさみしく思う。そういったところを含めて色々考えていただきたいと思っている。

#### 【R委員】

チケットについて、価格がどうかというのは、あくまでチケットにその値打ちがあるのかということになる。特色のある演出プログラムを充実するというので、積立ならでは

の魅力付けを増やしていく、遠くから来る人もたくさんいるので、本場の徳島市の阿波おどりこれ来て良かったなと思うような、栈敷に入らなければ味わえない臨場感というような演出も大事だと思う。見ているお客様も阿波おどりを構成している1人なんだという雰囲気作りが一番大切だと思う。

次に販売スケジュールについて、2月申込み開始というのは少し遅いと思う。そのようなスケジュールになるのであれば、前年秋ぐらいにアナウンスをしておく方が商品造成の関係から良いのではないかと思う。これまでは行政中心に運営してきたということで年度にとらわれていたが、民間委託ということであれば、年度を超えた決算というのも可能だと思うので、最大のメリットを生かすべきだと思う。また、早く団体受付をするのであれば、手数料なしでキャンセルできるようなことも検討していただけたらと思う。

次に演舞場の関係について、公演時間の短縮や開演時間の前倒し案については賛成である。それから体験型プログラムをしっかりと充実させて、さらにはインスタ映えや衣装の貸し出し、撮影スポット新設などもできるのであれば、進めていただけたらと思う。

参加費の改定案については基本的に賛成であるが、どうなっているのかわかるような透明性を担保する必要があると思う。参加費を無料とした連に関して、張り付けで多少困難を極めた場所があると聞いたので、そういった連については、2部の終了時間まで踊られていると認識はしているが、特に2部の演出という点でしっかりとここをカバーしていただくことで均衡がとれるのではないかという意見である。また、企業連について、阿波おどりは企業PRする場が少ないと思う。他のお祭りでは着ぐるみ着たり、物を出してPRする場所もあるので、阿波おどりもそういったPRできるような場所を考えていただけたらと思う。

シャトルバスの関係について、収支が取れてないと見える。観光客は色々な輸送ルートを使って移動してくるがその経費、または、マイカー利用で市内の駐車場で止めた場合のコストを比較すれば、現在の1人200円という値段については均衡失すると思っている。適正な価格に見直すということも収支改善からすると必要だと思う。例えば、シャトルバス代金が1人いくらと取るのではなく、車ごと1台いくらということで駐車料金とシャトルバス料金合わせた形で徴収すれば、つり銭もいらず、1台に乗車される方の乗り合わせ率が向上して、渋滞の緩和や交通事故の減少に繋がっていくのではないか。

今年の8月13日にダイヤモンドプリンセスが小松島港に寄港する予定であったが、台風の影響でキャンセルになり、一部の栈敷に大きな穴があいた。そういったことで栈敷の雰囲気というものを損ねることになるので、きっちりとフォローする対応も必要ではないかと思う。

#### 【副会長】

運営協議会の副会長という立場で実行委員会へ参加させていただいている。先ほどのQ委員から意見があった栈敷保管料について粟飯原委員に質問をしている。粟飯原委員は「いつでも栈敷を出してもらってもかまわない。そういったことを言われる方が恥ずか

しい。」「倉庫業は出し入れする方が儲かる。」というような返答であった。

**【Q 委員】**

副会長が実行委員会に出席されているので、私もこの運営協議会に出席している。

**【副会長】**

チケットや参加費のこともあるが、私が一番気になっているのは、東新町が踊りロードになるということで、その辺りを皆さんで真剣に練ってもらいたいと思う。また、今まで新町橋演舞場の運営に携わってきたが、新町橋演舞場の東側を廃止するということだが、これに関して皆さんの意見を聞きたいと思う。

**【事務局】**

資料1の提言書の中の図に元町、新町橋演舞場の付近図を記載されている。今回この提言書に至るまでで一つ大きな課題として雑踏の解消ということが大きい議論としてあった。その中で特に混雑しているところが藍場浜の出入口と両国橋付近である。両国橋付近では輪踊りで熱気があり、かなりの人込みで徳島ならではの賑わいになっている。その輪踊りの会場として新町橋演舞場の東側を使えないかということで、東側の栈敷を取り自由に踊れるような広場として設定したいと、また西新町側についても短めの栈敷を残して、輪踊りが見られるような場所を作れないかということで検討している。一方で踊り手からすると、踊りの会場が少なくなるのもいけないということ、また商店街の振興ということで東新町アーケード内を踊る場所として、踊り手と見物客を区切って安全な踊りスペースを確保したいと思っている。今後警察等の協議が必要になるが、昼間に観光客が阿波おどりを見る所が少ないという話や商店街振興という面からも昼間にも踊っていただけるような時間を設けたいと考えているところである。

**【副会長】**

どの程度の確率で実現しそうなのか。

**【事務局】**

提言書の中では評価委員会の全委員から支持されている案であり、明日の実行委員会ではそういった旨を説明させていただき、審議いただくことになると思う。地域の方の同意や警察、道路管理者との協議などこなさなければならない課題もあるが、評価委員会からは支持された案である。

**【副会長】**

マスコミでは決定かのような報道をされている。商店街内の方々から「運営協議会の委員であるのに私たちに話をしてくれないのか。」とお叱りをいただいている。もう少し詳しく教えていただきたいと思うが、明日の実行委員会で決定ということでもいいのか。

**【事務局】**

明日の実行委員会では、提言書と運営協議会の方からいただいているアンケート結果、今日の議論の結果を議論いただくようになると思われる。ただ、開演時間や交通規制などは道路管理者や地域の方、商店を運営されている方の意見が非常に重要なので、おそらく、

一旦方向性を決定した後に事務局や事業体が関係者と協議を行い、皆様の同意を得る形で進めていくことになると考えている。

**【Q 委員】**

先ほどの副会長の発言については理解をしたが、今まで半分の面積に栈敷を保管して残り半分を徳島新聞社が使用しており、400万円ずつの保管料がかかっていた。その契約については、徳島新聞社が一つの契約を巻いていた。合計800万円の半分の400万円を徳島市観光協会が支払っていた。その後徳島新聞社が退いているのに合計800万円の保管料を支払うのはおかしいのではないかと指摘している。しかも、この保管料を今年4月に事業体が決まって徳島市が800万円払っているからといって、事業体に支払わせているのは理不尽ではないかということを行っている。

**【副会長】**

少し勘違いをしていた部分があった。

**【会長】**

以上を持って2019年度第3回阿波おどり運営協議会を終了とする。